

2024・4・17【角川俳句賞2024 プランB 全132】 選31句

12行3段組14ポ 2024年4月17日 18:10 へ1 へ桐10

角 麗かやうららと歌ひ出す歌も 角 長旅を終へし流木夏の月 角 破門され苔の緑は青黴に

角 うらうらとうの字らの字のうららけし 角 夕立や素足に下駄の白浴衣 角 団子食ふ遅筆の机月遅し

角 春昼の織機に積る綿埃 角 水のなきモータープール日の盛り 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 たまに会ふ後輩と行く螢狩 角 春待つや時刻に満ちて時刻表

角 春の土篩にかけて埃立つ 角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三 角 ぱつくりと一口大の冬日かな

角 朝寝から起きて傾くバルザック 角 毛ものらのその根源の毛虫なり 角 大いなる枯野に一石を投ず

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色 角 百足の子百に足らざる足の数 角 悴めば家も軋んで月夜かな

角 蒲公英や一口大の日をあげて 角 万緑の濃き緑より濃き緑

角 初花の増えてをりたるゆふべかな 角 万緑の中の異なる色かたち

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 青黴を研究室に育めり

角 積み上げて本より高し雲の峰 角 赤青黄その他黴類研究所

2024・4・18【角川俳句賞2024 プランB 全16】 選22句

17行3段組14ポ 2024年4月18日 11:22 <1 > 桐10

角 隅田川春のうららと歌ふなり 角 毛ものらのその根源の毛虫なり

角 春の土篩にかけて埃立つ 角 足の数少し足らざる百足の子

角 朝寝から起きて傾くバルザック 角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色 角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 流木が海に漂ふ夏の月

角 蒲公英や一口大の日をあげて 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 団子食ふ遅筆の机十三夜

角 赤青黄その他黴類研究所 角 影の字に京の字のある寒さかな

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩 角 暁闇の柱に励む霜の声

角 万緑の濃き緑より濃き緑

角 万緑の中に電波を飛ばす塔

2024・4・18【角川俳句賞2024 プランB 全17句】 選16句

17行3段組14ポ 2024年4月18日 17:46 <1 > 桐10

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 埃舞ふ篩にかけし春の土 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる笑みの色 角 お団子を食べて遅筆の十三夜

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 影の字に京の字のある寒さかな

角 蒲公英や一口大の日をあげて

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤青黄その他黴類研究所

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 流木が海を漂ふ夏の月

2024・4・19【角川俳句賞2024 プランB 全190】 選22句

17行3段組14ポ 2024年4月19日 12:51 へ1 へ10

角 手も肩も冷えぬ布団に春を詠む

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 埃舞ふ節にかけし春の土

角 夜濯につまみ洗ひのもの二三

角 喜色とは朝寝足りたる笑みにこそ

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 卒業や未来に続く今日明日

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり

角 お団子を食べて遅筆の十三夜

角 蒲公英や一口大の日をあげて

角 影の字に京の字のある寒さかな

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 下戸の座に鱒大根をつつくなり

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

2024・4・19【角川俳句賞2024 プランB 全208】 選21句

17行3段組14ポ 2024年4月19日 22:09 へ1 へ桐10

角 手も肩も冷えぬ布団に春を詠む 角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 夜濯につまみ洗ひのもの二三

角 ふるはれて埃つぽいぞ春の土 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 喜色とは朝寝足りたる笑みにこそ 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 今日は今以降は未来卒業す 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 お団子を食べて遅筆の十三夜

角 蒲公英や一口大の日をあげて 角 ラグビーや母校といふも中退で

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 下戸の座に鯰大根をつつきをる

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

2024・4・20【角川俳句賞2024 プランB 全21句】 選18句

17行3段組14ポ 2024年4月20日 03:38 へ1 へ桐10

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 ふるはれて埃つばいぞ春の土 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 喜色とは朝寝足りたる子の笑顔 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 今の今以降は未来卒業す 角 ラグビーや母校といふも中退で

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 下戸の座に鯰大根をつかまつる

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 赤青黄その他黴類研究所

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

2024・㊦・20【角川俳句賞2024 プランB 全22】 選21句

17行3段組14ポ 2024年4月20日 11:34 へ1 へ10

角 「の」を伸ばし春のうららの隅田川 角 タ立や素足に下駄の白浴衣

角 ふるはれて埃つばいぞ春の土 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 喜色とは朝寝足りたる子の笑顔 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 今の今以降は未来卒業す 角 明け方は欠伸の虫もありぬべし

角 交流の通ふ電線百千鳥 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 ラグビーや母校といふも中退で

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 風邪薬薬法師とも思ふなり

角 赤青黄その他黴類研究所 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 青大将に鎧も兵も無かりけり

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 赤き舌出し夏風邪を訴へる

2024・㊦・20【角川俳句賞2024 プランB 全24】 選21句

17行3段組14ポ 2024年4月20日 17:47 へ1 へ桐10

角 「の」を長く春のうららの隅田川 角 タ立や素足に下駄の白浴衣

角 篩ひをれば埃つばいぞ春の土 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ 角 流木が海を漂ふ夏の月

角 今の今以降は未来卒業す 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 地虫出づ欠伸の虫もありぬべし 角 ラグビーや母校といふも中退で

角 電線の中の交流百千鳥 角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 芽吹きたれば隣りも同じ芽吹きなり 角 診てもらふ風邪に荒れたる舌出して

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 風邪に寝て頼る法師は薬法師

角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 探梅の往路いつしか復路なる

角 赤青黄その他黴類研究所

角 家来なき青大将の行方かな

角 毛ものらのその根源の毛虫やも



2024・㊦・24【角川俳句賞2024 プランB 全28句】 選24句

17行3段組14ボ 2024年4月24日 09:39 へ1 へ10

角 「の」を「のう」と春のうららの隅田川

角 がにまたと音も濁りて蟹歩く

角 篩はれて埃つばいぞ春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 今の今以降は未来卒業す

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 啓蟄や欠伸の虫も遅れつつ

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 電線の中の交流百千鳥

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 下戸の座に鱒大根をつかまつる

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 診てもらふ風邪に荒れたる舌を出し

角 赤青黄その他黴類研究所

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 探梅の往路いつしか復路なる

2024・4・24【角川俳句賞2024 プランB 全31】 選28句

17行3段組14ポ 2024年4月24日 19:25 へ1 へ桐10

角 隅田川春の麗らをらあらあと

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 啓蟄や欠伸の虫も遅れ出づ

角 家来なき青大将の行方かな

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 がにまたの濁音あはれ蟹歩く

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 電線の中の交流百千鳥

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 今の今以降は未来卒業す

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 石鱖玉手玉に取つてみたきかな

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 八月の苦しかりける蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 慰霊碑を刻む火花や秋の暮

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 赤青黄その他黴類研究所

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

2024・4・25【角川俳句賞2024 プランB 全340】 選27句

17行3段組14ポ 2024年4月25日 10:11 へ1 へ10

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 家来なき青大将の行方かな

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 がにまたと言へどがにまた蟹速し

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 今の今以降は未来卒業す

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 赤青黄その他黴類研究所

角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

2024・4・25【角川俳句賞2024 プランB 全35句】 選33句

17行3段組14ポ 2024年4月25日 19:42 へ1 へ桐10

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 台風の最中灯台の灯が廻る

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 サイダーの甘きストロー籠に捨つ

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 がにまたと言へどがにまた蟹速し

角 未来みな後ろへ落る木の葉髪

角 今の今以降は未来卒業す

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きをる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 流木が海を漂ふ夏の月

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

2024・4・26【角川俳句賞2024 プランB 全37句】 選33句

17行3段組14ポ 2024年4月26日 08:14 へ1 へ10

角 さらあらあと春のうららの隅田川

角 赤青黄その他黴類研究所

角 台風の最中灯台の灯が廻る

角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな

角 滝壺に密かに廻り続けるは

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ

角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ

角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 篩はれて埃ゆたかに春の土

角 家来なき青大将の行方かな

角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 交流のかよふ電線百千鳥

角 岩陰へ蟹のがに股遁走す

角 未来みな後ろへ落る木の葉髪

角 今の今以降は未来卒業す

角 毛ものらのその根源の毛虫やも

角 下戸の座に鯽大根をつかまつる

角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな

角 夕立や素足に下駄の白浴衣

角 有難や風邪寝の床に薬法師

角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる

角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの

角 ラグビーや母校といふも中退で

角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩

角 流木が日本を目指す夏の月

角 探梅の往路いつしか復路なる

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻

角 新緑の「ボール取らせてください」と

角 色なくて寂しからずや秋の風

角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

角 心臓に遠き血液手足冷ゆ

2024・4・26【角川俳句賞2024 プランB 全395】 選38句

17行3段組14ポ 2024年4月26日 19:23 へ1 桐10

- 角 暖かな長閑な日々のありしこと  
角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 さらあらあと春のうららの隅田川  
角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな  
角 ラグビーや母校といふも中退で
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 探梅の往路いつしか復路なる
- 角 篩はれて埃ゆたかに春の土  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す
- 角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 毛ものらのその根源の毛虫やも
- 角 今の今以降は未来卒業す  
角 夕立や素足に下駄の白浴衣
- 角 石鱈玉手玉に取つてみたきかな  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
- 角 破裂して風船の息散り散りに  
角 流木が日本を目指す夏の月
- 角 雁風呂を焚くやそこの流木も  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩  
角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
- 角 でんとあるピアノブラック桃の花  
角 灯台の投光廻る颱風裡
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃  
角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 干乾びて茄子一族の唐辛子
- 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 下戸の座に鯰大根をつかまつる
- 角 赤青黄その他黴類研究所  
角 関東をカントと言へり関東煮

2024・4・27【角川俳句賞2024 プランB 全40句】 選38句

17行3段組14ポ 2024年4月27日 19:59へ1<桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 さらあらあと春のうららの隅田川  
角 滝壺に密かに廻り続けるは  
角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬っぺ  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 ラグビーや母校といふも中退で
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 探梅の往路いつしか復路なる
- 角 篩はれて埃ゆたかに春の土  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す
- 角 花の蜜囀るものが来ては吸ふ  
角 毛ものらのその究極の毛虫やも
- 角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 夕立や素足に下駄の白浴衣
- 角 今の今以降は未来卒業す  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
- 角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 流木が日本を目指す夏の月
- 角 破裂して風船の息散り散りに  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩  
角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 灯台の投光廻る颱風裡
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃  
角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 乾びけり茄子一族の唐辛子
- 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 下戸の座に鯰大根をつかまつる
- 角 赤青黄その他黴類研究所  
角 関東をカントと言へり関東煮

2024・㊦・28【角川俳句賞2024 プランB 全41】 選41句

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 明け方に背十を割りなば涼しかろ 角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 雷の歓心を買ふ避雷針 角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 らあらあと春のうららの隅田川 角 滝壺に密かに廻り続けるは 角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 篩はれて埃ゆたかに春の土 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ 角 雨音の消えしは雪か子の寝息
- 角 花の蜜囀るものが来ては吸ふ 角 家来なき青大将の行方かな 角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 交流のかよふ電線百千鳥 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す 角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな 角 毛ものらのその純血の毛虫やも 角 探梅の往路いつしか復路なる
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 夕立や素足に下駄の白浴衣
- 角 今の今以降は未来卒業す 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
- 角 石罅玉手玉に取つてみたきかな 角 流木が日本を目指す夏の月
- 角 破裂して風船の息散り散りに 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
- 角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩 角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 灯台の投光廻る颱風裡
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし 角 赤く長く茄子一族の唐辛子
- 角 赤青黄その他黴類研究所 角 下戸の座に鱒大根をつかまつる



2024・4・29【角川俳句賞2024 プランB 全44句】 選43句

- 角 暖かで長閑な日々のあるしこと 角 明け方に背ナを割りなば涼しかろ 角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 雷の歓心を買ふ避雷針 角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 らあらあと春のうららの隅田川 角 滝壺に密かに廻り続けけり 角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 篩はれて埃ゆたかに春の土 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ 角 着膨れて重たかりける雪の木々
- 角 忙しいう囀るものに花の蜜 角 家来なき青大将の行方かな 角 雨音の消えしは雪か子の寢息
- 角 交流のかよふ電線百千鳥 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す 角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな 角 毛ものらのその純血の毛虫やも 角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 夕立や素足に下駄の白浴衣 角 メルカトル図法に開く寒卵
- 角 今の今以降は未来卒業す 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの 角 探梅の往路いつしか復路なる
- 角 石罅玉手玉に取つてみたきかな 角 流木の打ち上げられし夏の月 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
- 角 破裂して風船の息散り散りに 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻 角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 つくづくと吾子の旋毛や潮干狩 角 色なくて寂しからずや秋の風 角 灯台の光の束や颱風裡
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 心臓に遠き血液手足冷ゆ 角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 赤く長く茄子一族の唐辛子
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし 角 下戸の座に鱈大根をつかまつる
- 角 赤青黄その他黴類研究所

2024・4・30【角川俳句賞2024 プランB 全46句】 選41句

17行3段組14ポ 2024年4月30日 12:14 へ1 へ10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 明け方に背ナを割りなば涼しかろ 角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 雷の歓心を買ふ避雷針 角 閉め切れれば障子の隙間風聞こゆ
- 角 らあらあと春のうららの隅田川 角 滝壺に密かに廻り続けけり 角 枯木にも枯れざる木にも雪白し
- 角 篩はれて埃ゆたかに春の土 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ 角 雨音の消えしは雪か子の寝息
- 角 花の蜜なめて再び囁りに 角 家来なき青大将の行方かな 角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 交流のかよふ電線百千鳥 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す 角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな 角 毛ものらのその純血の毛虫やも 角 メルカトル図法に開く寒卵
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの
- 角 今の今以降は未来卒業す 角 流木を浜に打ち上げ夏の月
- 角 石罅玉手玉に取つてみたきかな 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻
- 角 破裂して風船の息散り散りに 角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 赤く長く茄子一族の唐辛子
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 灯台の光の束や颱風裡
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 心臓に遠き血液手足冷ゆ
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし 角 下戸の座に鯰大根をつかまつる
- 角 赤青黄その他黴類研究所 角 関東をカントと訛る関東煮

2024・5・3【角川俳句賞2024 プランB 全47句】 選43句

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 松からの風竹からの風薫る  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 さらああと春のうららの隅田川  
角 滝壺に密かに廻り続けけり  
角 篩はれて埃ゆたかに春の土  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 花の蜜なめて再び囁りに  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな  
角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 流木の旅の終りを夏の月  
角 石罅玉手玉に取つてみたきかな  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩  
角 つむじ風露地に遊ぶや猫じやらし  
角 墨するは今朝の董の雫もて  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃  
角 灯台の光の束や颱風裡  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 心臓に遠き血液手足冷ゆ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 下戸の座に鱈大根をつかまつる

2024・5・4【角川俳句賞2024 プランB 全487】 選43句

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 松からも竹からも風薫るなり 角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 雷の歓心を買ふ避雷針 角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 歌ふなり春のうらあらか隅田川 角 滝壺に密かに廻り続けけり 角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ 角 枯枝に枯れざる枝に雪白し
- 角 花の蜜なめて再び囀りに 角 家来なき青大将の行方かな 角 雨音の消えしは雪か子の寢息
- 角 交流のかよふ電線百千鳥 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す 角 皺腹の痒きところや着膨れて
- 角 啓蟄に遅れし虫の欠伸かな 角 毛ものらのその純血の毛虫やも 角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの 角 メルカトル図法に開く寒卵
- 角 今の今以降は未来卒業歌 角 流木の旅の終りし夏の月 角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 石罅玉手玉に取つてみたきかな 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻 角 つむじ風露地に遊ぶや猫じやらし
- 角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 つむじ風露地に遊ぶや猫じやらし 角 色なくて寂しからずや秋の風
- 角 墨するは今朝の董の雫もて 角 色なくて寂しからずや秋の風 角 赤く長く茄子一族の唐辛子
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 赤く長く茄子一族の唐辛子 角 灯台の光の束や颱風裡
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃 角 灯台の光の束や颱風裡 角 心臓に遠き血管手足冷ゆ
- 角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 心臓に遠き血管手足冷ゆ 角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし 角 切られては角なき鹿の小さき顔 角 下戸の座に鱈大根をつかまつる
- 角 赤青黄その他黴類研究所 角 下戸の座に鱈大根をつかまつる

2024・5・4【角川俳句賞2024 プランB 全50句】 選44句

17行3段組14ポ 2024年5月4日 15:37 へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 歌ふなり、はああるのうと、うらあらあ  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる  
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩  
角 墨するに董の雫あつめけり  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 赤青黄その他黴類研究所
- 角 松からも竹からも風薫るなり  
角 雷の歡心を買ふ避雷針  
角 滝壺に密かに廻り続けけり  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 諦めたころに大きく揚花火  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 灯台の光の束や颱風裡  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に獅大根をつかまつる  
角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 枯枝に枯れざる枝に雪白し  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 皺腹の痒きところや着膨れて  
角 今年はやふつか者の二日なり  
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 メルカトル図法に開く寒卵  
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

2024・5・4【角川俳句賞2024 プランB 全52】 選47句

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はあるの、う、らあらあと  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 松からも竹からも風薫るなり  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 滝壺に密かに廻り続けけり  
角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 石鱈玉手玉に取つてみたきかな  
角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 墨するに董の雫あつめけり  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 不発かと空に消えたる花火爆ず  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 菜の花の花を終へたる黄色かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 葉桜の緑枝垂るる水面かな  
角 束なして灯台の灯や颱風裡  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ

2024・5・5【角川俳句賞2024 プランB 全532】 選48句

17行3段組14ポ 2024年5月5日 17:35 へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はあるの、う、らあらの  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 松からも竹からも風薫るなり  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 滝壺に密かに廻り続けけり  
角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる  
角 万緑に幹は日陰の力持ち  
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩  
角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 墨するに董の雫あつめけり  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 菜の花の花を終へたるうす緑  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 葉桜の緑枝垂るる水面かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 束なして灯台の灯や颱風裡
- 角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 雨音の消えしは雪か子の寝息  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 大寒の皺腹痒きところ搔く  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 メルカトル図法に開く寒卵  
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク

2024・5・7【角川俳句賞2024 プランB 全57句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月7日 11:48 へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの 角 赤青黄その他黴類研究所  
角 塩辛き海を薄めて雪解川 角 松からも竹からも風薫るなり  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 花の蜜なめて再び囀りに 角 滝壺に密かに廻り続けけり  
角 交流のかよふ電線百千鳥 角 万緑の葉隠れに幹太るなり  
角 寝不足の欠伸の虫が地を出づる 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 同じ芽が同じ高さで芽吹きたる 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今の今以降は未来卒業歌 角 家来なき青大将の行方かな  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 墨するに董の雫あつめけり 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ 角 不発かと思ひし空に花火爆ず  
角 葉桜の緑枝垂るる水面かな 角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 束なして灯台の灯や颱風裡  
角 また一つ余命の箱に流れ星  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 雨音の消えしは雪か子の寝息  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 大寒の皺腹痒きところ搔く  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 メルカトル凶法に開く寒卵  
角 春待つや紙石鹼の薄ピンク



2024・5・7【角川俳句賞2024 プランB 全585】 選48句

17行3段組14ポ 2024年5月7日 18:29 ^1 <桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はあるの、う、らあらの 角 赤青黄その他黴類研究所  
角 塩辛き海を薄めて雪解川 角 松からも竹からも風薫るなり  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 花の蜜なめて再び囀りに 角 幹太し万緑を地に繋ぎ止め  
角 交流のかよふ電線百千鳥 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 同じ種が同じ高さに芽吹きたる 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今の今以降は未来卒業歌 角 家来なき青大将の行方かな  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 墨するに董の雫あつめけり 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 墨するに今朝の董の雫かな 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ 角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 葉桜の緑しだるる水面かな 角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 新緑の「ボール取らせてください」と 角 灯台が黄泉を照らせる颱風裡

2024・5・8【角川俳句賞2024 プランB 全59句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月8日 21:57 へ1 桐10

- 角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はあるの、う、らあらの  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 松からも竹からも風薫るなり  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 花の蜜なめて再び囁りに  
角 幹太く万緑を地に繋ぎ止む  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 同じ種が同じ高さに芽吹きたる  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩  
角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 墨するに今朝の董の雫かな  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 不発かと思ひし空に花火爆ず  
角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 魚籠あげて澄む水抜けて魚籠残る  
角 葉桜の緑しだるる水面かな  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 俳句・チョコ・切干・するめ冬籠  
角 大寒の皺腹痒し搔くべかり  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 春待つや紙石鹼の良い匂ひ

2024・5・6【角川俳句賞2024 プランB 全598】 選108句

17行3段組14ポ 2024年5月9日 18:38 へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと 角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 引力を楽しむ春やゆやゆよん 角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ 角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの 角 赤青黄その他黴類研究所  
角 塩辛き海に驚く雪解川 角 松からも竹からも風薫るなり  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり 角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 花の蜜なめて再び囀りに 角 幹太く万緑を地に繋ぎ止む  
角 交流のかよふ電線百千鳥 角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ 角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今の今以降は未来卒業歌 角 家来なき青大将の行方かな  
角 石罅玉手玉に取つてみたきかな 角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 つくづくと吾子の旋毛を潮干狩 角 毛ものらのその純血の毛虫やも  
角 墨するに今朝の董の雫かな 角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花 角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ 角 不発かと思ひし空に花火爆ず  
角 花の雨しだるる枝にしたたるよ 角 魚籠あげて澄む水抜けて魚籠残る  
角 葉桜の緑しだるる水面かな 角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 北風の露地に遊ぶやつむじ風  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠  
角 大寒の皺腹痒し搔くべかり  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 春待つや紙石罅の良い匂ひ

2024・5・12【角川俳句賞2024 プランB 全612】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月12日 23:41へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 松に竹に五月の風の美しき  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 幹太く万緑と地の間かな  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風  
角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠  
角 潮干狩吾子の旋毛のよく見ゆる  
角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 墨するに今朝の董の雫かな  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 大寒の皺腹痒し搔くべかり  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 不発かと思ひし空に花火爆ず  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 春待つや紙石鹼の良い匂ひ  
角 葉桜の緑しだるる水面かな  
角 色なくて寂しからずや秋の風

2024・5・13【角川俳句賞2024 プランB 全617】 選50句

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 松に竹に五月の風の美しき  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子  
角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 幹太く万緑と地を繋ぎけり  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風  
角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠  
角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる  
角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 墨するに今朝の董の雫かな  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 大寒の皺腹痒し搔き筆る  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 不発かと思ひし空に花火爆ず  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ  
角 葉桜の緑しだるる水面かな  
角 色なくて寂しからずや秋の風

2024・5・15【角川俳句賞2024 プランB 全623】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月15日 10:17へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 松に竹に五月の風の美しき  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜
- 角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出て次の蕾や花菖蒲  
角 下戸の座に鯰大根を仕る
- 角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 花の蜜なめて再び囁りに  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風
- 角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 をさな子のただにうれしやお正月
- 角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 今の今以降は未来卒業歌  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠
- 角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る
- 角 墨磨るに今朝の董の雫かな  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 雨音の消えしは雪か子の寝息
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 大寒の皺腹痒し掻き筆る
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ
- 角 葉桜の緑しだるる水面かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子

2024・5・17【角川俳句賞2024 プランB 全625】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月17日 21:10 へ1 桐10

- 角 暖かで長閑な日々のありしこと  
角 松に竹に五月の風の美しき  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜
- 角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出る勢ひの次の花菖蒲  
角 下戸の座に鯰大根を仕る
- 角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 花の蜜なめて再び囁りに  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風
- 角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 をさな子のただにうれしやお正月
- 角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 今の今以降は未来卒業歌  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 毛ものら先頭に立つ毛虫なり  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠
- 角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る
- 角 墨磨るに今朝の董の雫かな  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息
- 角 ピアノにはピアノブラック桃の花  
角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 大寒の皺腹痒し搔き筆る
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ
- 角 葉桜の緑したたる水面かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子

2024・5・18【角川俳句賞2024 プランB 全62句】 選50句

- 角 暖かで長閑な日々の続くなり  
角 松に竹に五月の風の美しき  
角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜
- 角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ
- 角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 切られては角なき鹿の小さき顔
- 角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出る勢ひに次の花菖蒲  
角 下戸の座に鯽大根を仕る
- 角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 関東をカントと訛る関東煮
- 角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ
- 角 花の蜜なめて再び囁りに  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風
- 角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 をさな子のただにうれしきお正月
- 角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 今年はやふつつか者の二日なり
- 角 今の今以降は未来卒業歌  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 ラグビーの母校といふも中退で
- 角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 毛ものら先頭を行く毛虫なり  
角 俳句、チョコ、切干、するめ冬籠
- 角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る
- 角 墨磨るに今朝の董の雫かな  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息
- 角 ピアニスト、ピアノブラック桃の花  
角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 大寒の皺腹痒し掻き筆る
- 角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 有難や風邪寝の床に薬法師
- 角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ
- 角 葉桜の緑したたる水面かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子



2024・5・20【角川俳句賞2024 プランB 全63句】 選50句

- 角 暖かで長閑な日々が続きます  
角 松竹に五月の風の美しき  
角 引力を楽しむ春やゆやゆよん  
角 新緑の「ボール取らせてください」と  
角 喜色とは朝寝足りたる子の頬つぺ  
角 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし  
角 歌ふなり、はああるの、う、らあらの  
角 抜きん出る勢ひに次の花菖蒲  
角 塩辛き海に驚く雪解川  
角 赤青黄その他黴類研究所  
角 春の土ほこり豊かに篩ひけり  
角 雷の歓心を買ふ避雷針  
角 花の蜜なめて再び囀りに  
角 サイダーの甘き空缶籠に投ぐ  
角 交流のかよふ電線百千鳥  
角 熱き地の1ミリ上を蟻あゆむ  
角 同じ種が同じ高さに芽吹くころ  
角 家来なき青大将の行方かな  
角 今の今以降は未来卒業歌  
角 岩陰へ蟹のがに股遁走す  
角 石鹼玉手玉に取つてみたきかな  
角 毛ものらの先頭を行く毛虫なり  
角 潮干狩吾子の旋毛がよく見ゆる  
角 夜濯のつまみ洗ひで済ますもの  
角 墨磨るに今朝の董の雫かな  
角 八月は脱ぎ捨てられし蟬の殻  
角 大いなるピアノブラック桃の花  
角 不発かと思ひし空に火花爆ず  
角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花に来よ  
角 魚籠あげて澄む水抜けてしまひけり  
角 花の雨しだるる枝にしたたるよ  
角 色なくて寂しからずや秋の風  
角 葉桜の緑したたる水面かな  
角 赤く長く茄子一族の唐辛子
- 角 灯台が黄泉路を照らす野分の夜  
角 心臓に遠き血管手足冷ゆ  
角 切られては角なき鹿の小さき顔  
角 下戸の座に鯰大根を仕る  
角 関東をカントと訛る関東煮  
角 閉め切れば障子の隙間風聞こゆ  
角 短日の露地に遊ぶよつむじ風  
角 をさな子のただにうれしきお正月  
角 今年はやふつつか者の二日なり  
角 ラグビーの母校といふも中退で  
角 ホ句とチョコ、切干、するめ冬籠  
角 枯枝に枯れざる枝に雪が降る  
角 雨音の消えしは雪か子の寢息  
角 大寒の皺腹痒し掻き筆る  
角 有難や風邪寝の床に薬法師  
角 春待つや紙石鹼のいい匂ひ